

乳酸菌生産物質

腸内フローラの認知向上で  
引き合い増

光英科学研究所

乳酸菌生産物質の製造・販売、研究・開発などで50年以上にわたる実績を持つ光英科学研究所(埼玉県和光市、8048・467・3345)では、16種・35株の複合乳酸菌生産物質「Sixteens(シックスティーンズ)」を原料・OEM供給している。先月の「NHKスペシャル」

で腸内フローラに関する番組が放送され、問い合わせが急増している。同社は、健康や免疫は腸から作られるといった「腸能力開発(商標登録済)」をスローガンに、大学や各種研究機関と共同で、作用機序の解明やエビデンスの構築、学術誌への論文投稿などを進めている。特に、慶應義塾

大学先端生命科学研究所とヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ社による解析技術を用いて、同素材が34のペプチドを含む352種類の乳酸菌発酵代謝物質(水溶性235種類、脂溶性117種類)から構成されていることを明らかにしたことは高く評価されている。

新しい機能性研究では、城西大学薬学部の徳留嘉寛准教授らのグループと共同で、美肌に関する試験を実施。「第58回日本薬学会関東支部大会」で、「乳酸菌生産物質経口投与のUVB照射へアレスマウス皮膚における経表皮水分損失量・角層水分量に対する影響」と題し、乳酸菌生産物質の経口投与はUVB照射マウス皮膚の経表皮水分損失量、角層水分量

に対して有用な作用をもたらすことが示唆された旨を論文発表している。なお、同社では、長年培ってきた複合乳酸菌の発酵技術を生かした受託

業務も手掛けるほか、経産省の平成26年度サポイン事業で採択された「複合乳酸菌発酵法を利用した大豆を原料とする抗ストレス食品素材ステリル

グリコシドの開発」をお茶の水女子大学の室伏きみ子名誉教授(次期学長)と共同で現在進めている。